

山形教区報

発行 天理教山形教務支庁 〒 994-0027 天童市桜町 11 番 1 号
 TEL 023-656-8420 FAX 023-656-8425
 編集 広報部 E-mail y_kohobu@yahoo.co.jp

立教 185 年

4 月号

第 149 号

森井昭司氏 教区長に再任

3月26日のお運びで、真柱様より、森井昭司氏(名古屋大・置賜分教会長)が第22代山形教区長に任命頂かれた。



去る3月26日、御本部月次祭祭典終了後、真柱様より、引き続き山形教区長にご任命頂きました。重き理の御用を頂戴致し、身の引き締まる思いでございます。

真柱様は年頭のご挨拶で、4年後の立教一八九九年に教祖百四十年祭を勤めることを発表下さり、来年には百四十年祭を目指す三年千日の動きに入っていくことをお示し下さいました。更に、

「コロナの感染症が、この先どのようなことになるのか、私たちには分かりません。安心して御用ができて、いつごろ来るのか予想もつきません。安心して御用ができて、できないのはコロナのせいだというように過ぎいきません。できないのはコロナのせいだというように過ぎいき与えられた条件のなかで、やらなくてはならないことをいかに進めるかということ、いまの時局を考えて、それぞれのとめを果たしていただきたいと思います」

と、お話し下さいました。

今日に至るこの3年間の在任中は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により活動の自粛を求められ、おちば帰りもままならず、動きを作り出すことが出来ませんでした。

昨年1月、中田善亮表統領先生は「これからの道の歩み」としてお話し下された中で、教会が輝きを放てる場所になるためには、たすけ一条の道を歩むほかない、との旨をお聞かせ下さいました。

ただ今のお道は、親神様の思召からは大きく後退をしているように思われます。そのことは、今この時に世界に、また教内に見せられている姿からも明らかであるように思います。親神様はこうした姿を見せられることにより、ようぼうや教人はもちろん、この道を歩む全ての人々に対して、教祖の道具衆であることの自覚と誇りを持つように強く促されていると感じ取らせて頂くのであります。この道に繋がる一人ひとり、教祖よりお教え頂いたこの教えを今一度紐解き、ひながたの道を見つめ直して、もう一段思案を深める必要があるのではないのでしょうか。

管内の教会長始め教友の皆様には、主事を始めとした教区・各支部の役職者の方々と共に、今求められていることを見つめ、思案し、談じ合い、一手一つになって山形教区の良さを更に高めていけるよう、それぞれのお立場で、尚一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

主事

遠藤 義孝 (再任)
 ・ 総務部長
 ・ 広報部長



中村 俊一 (再任)
 ・ 集会員
 ・ 教務部長



中森 芳郎 (再任)
 ・ 育成部長
 ・ 輸送部長



高橋 惣一 (新任)
 ・ 布教部長



佐々 幸雄 (新任)
 ・ 会計部長



書記

松岡 英次 (再任)

支部長

中央 高橋 惣一 (再任)

米 沢 阿部 芳晴 (再任)

置 賜 森谷 賢治 (再任)

鶴岡田川 佐藤 明博 (新任)

酒田飽海 佐藤 真一 (再任)

中央西 藤野 徹 (新任)

地方委員

中央 藤原 隆宏 (再任)

五十嵐 理 (再任)

安藤 友治 (新任)

川 正敏 (新任)

米 沢 阿部 芳晴 (再任)

置 賜 諸橋 正史 (再任)

鶴岡田川 武者 眞 (再任)

酒田飽海 佐藤 明博 (再任)

中央西 志鎌 潔 (再任)

藤野 徹 (新任)

各会

災害隊隊長 牧野 啓道 (新任)

道友社代表社友 藤原 隆宏 (再任)

婦人会主任 森井喜代枝 (再任)

青年会委員長 佐藤昭太郎 (新任)

少年会団長 中森 芳郎 (再任)

学生担当委員会委員長 松本 真 (新任)

天理教山形教区学生会

春の学生おぢばがえり参加

3月27日より29日まで、「立教185年春の学生おぢばがえり」団参を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一昨年、昨年と2年続けて中止となりましたが、今年は3年ぶりに開催されることとなり、参加者一同は27日に勇んで山形を出発。感染防止対策を一番に心掛け、万全の注意を払いながら、おぢばに帰らせて頂きました。



式典当日の28日は、開会前の時間を用いて初席者、中席者がそれぞれ別席を運ばせて頂きました。10時から本部中庭において式典が行われ、真柱様が教祖殿回廊にお出まし下さいました。これまでの式典中の様子とは違い、今回は参加者達は一切声を出さずに、肅々と進められました。始めに、真柱様のメッセージが本部学生担当委員長により代読され、真剣な表情で聞かせて頂いた学生達は、「人

に喜んでもらえる心を忘れることなく、日々を通らせて頂きたい」と感想を述べするなど、このメッセージから多くのことを学び取った様子でした。

続く「道の学生の歩み」では、里親のもとで生活している学生達が発表に立ち、現在の自身の境遇に感謝しながら、道を求めて歩む日々の体験を語ってくれました。

例年、式典後に開催されていた直属アワーも、感染拡大防止のために中止となり、特別な行事は何もありませんでしたが、今年から別席場前の枝垂れ桜が夜間ライトアップされることを聞き、観覧に出かけました。現場到着直後にライトが点灯され、その見事さに現地にいた人達から歓声が沸き起こった程でした。

多くの場面で自粛、自重が求められましたが、そのお陰で全ての日程を無事に過ごすことが出来たと思います。

おぢばで合流した者も含めて、学生4名、中学生1名が参加し、学生担当委員3名が世話取りに当たらせて頂きました。

報告者 教区学生担当委員長 高橋 惣一



